

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	美術
-----	----

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p>第1の観点（ア）基礎・基本の定着</p> <p>①各題材を通して身につけたい力を3つ挙げて記号で示し、それぞれにつながる目標内容を記載している。</p> <p>②「学習のポイント」の中に、〔共通事項〕へ着目するように促すコメントを示している。</p> <p>③基礎的な用具の使い方や色彩に関する知識などを、「美術1」の巻末にまとめて記載している。</p> <p>第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①作品全体を折り曲げの大型図版で掲載し、作品全体を拡大したり、一部を原寸大の図版で示したりしている。</p> <p>②作家や生徒作品及び作者の言葉を掲載することで、様々な材料の特徴を生かした表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動へ展開できるようにしている。</p> <p>③社会で活躍する4名の言葉を紹介し、美術の学びと生活や社会とのつながりについて示したり、3年間の学習のまとめとして社会における美術の役割や社会への広がりについて示したりしている。</p> <p>第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量</p> <p>①1学年の巻頭では、図画工作科とのつながりや、美術を学ぶ意義や目的を意識させる内容ではじまり、2・3学年の終末では美術の学習を通して培った見方・考え方や感じ方を生かして、これからの生き方や未来について考える構成になっている。</p> <p>第4の観点（エ）内容の表現・表記</p> <p>①生徒作品やアイデアスケッチとともに、活動ごとに写真と説明文などを示し、学習の流れを紹介している。</p> <p>第5の観点（オ）言語活動の充実</p> <p>①A 身の回りにある例や生徒の作品、アイデアスケッチ及びコメントを記載したワークシートを例示し、発想・構想の方法を示している。</p> <p>B 「学習のポイント」を記載することで、鑑賞の活動のポイントを端的に示している。</p>

第1の観点（ア）基礎・基本の定着

- ①「鑑賞」と「表現」のマークを示して、それぞれの目標の達成に向けた活動の筋道を具体内容として示している。
- ②全ての「表現」と「鑑賞」の活動のはじめの文に、〔共通事項〕へ着目するように促すコメントを示している。
- ③基礎的な用具の使い方、技法、色彩に関する知識などについて、「学習を支える資料」として各巻末にまとめて記載している。

第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫

- ①A 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、彫刻作品と屏風絵作品を比較できるようになっている。
- B 作品とそれを見ている少年の写真を掲載することで、作品の大きさを実感できるようにしている。
- C 和紙のような風合いのある紙に印刷し、実際の作品の仕上がりに近づけている。
- D 一点透視図法などの作者の表現の工夫を、トレーシングペーパーに書き込めることで、実感を伴って理解できるようにしている。
- ②一つの題材の中で表現と鑑賞のアイコンを掲載し、相互に関連した学習の流れを示している。
- ③生活の中の美術について考えるきっかけとなる資料を、「デザインってなんだろう？」の特設ページとして設けている。

第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量

- ①美術1では、「美術って何だろう？」「美術で学ぶこと」というページを設け、小中のつながりを意識させ、美術を学ぶ意義や目的を確認しながら、生徒が3年間の学びを見通し、これからの学習に期待感がもてるよう工夫している。

第4の観点（エ）内容の表現・表記

- ①表現のほぼ全ての題材に、作品の発想を練るための具体的な手立てと、「みんなの工夫」と題して、2名の生徒の学習活動の過程を分けた写真を作者の言葉とともに紹介している。

第5の観点（オ）言語活動の充実

- ①A 「ノートやスケッチブックを活用しよう」や「学習を支える資料」に「発想を広げる」のページを設け、言語活動例を複数示している。
- B 鑑賞のポイントが発問の文章で記載されている。

第1の観点（ア）基礎・基本の定着

- ①各題材で身につけたい力を3つ挙げ（造形的な見方を豊かにする視点や技能）（発想や構想、鑑賞）（主体的な学習への取組）、全ての題材の先頭に3つの力をマークとして示し、それぞれにつながる目標内容を記載している。
- ②「造形的な視点」を吹き出しで示し、〔共通事項〕へ着目するように促したり、〔共通事項〕に着目した活動を促す資料や文章を掲載したりしている。
- ③基礎的な用具の使い方、技法、色彩に関する知識などについて、「学びを支える資料」として各巻末にまとめて記載している。

第2の観点（イ）主体的に学習に取り組む工夫

- ①A 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。
B 作品に女子中学生の平均身長シルエット像を並べて示すことで、作品の大きさを実感できるようにしている。
C 版画の初摺作品を撮影した高精細データと特殊インクを使用し、より実物に近い図版に近づけている。
D 通常よりも厚い用紙を使用し、屏風の奥行きや、見え方の違いを実感できるように、実際に折って立てて鑑賞できる観音開きの造本にしている。
- ②一つの題材の中で、表現と鑑賞の活動を表すインデックスを重なり合うように掲載し、相互の学習の関連を示している。
- ③オリエンテーションや「社会に生きる美術の力」で、異なる分野で活躍する著名人の言葉を紹介し、美術の学びと生活や社会とのつながりについて示している。

第3の観点（ウ）内容の構成・配列・分量

- ①家庭に作品を持ち帰って使ったり、地域の施設などの展示を通して、学校での学びを地域の方に伝えたりする事例や、地域の方と協働して活動する事例が多数掲載されており、美術科における社会との連携が示されている。

第4の観点（エ）内容の表現・表記

- ①制作過程の写真、活動途中や終末での相互鑑賞・プレゼンテーションの写真が掲載されている。また、写真の大小のめりはりをつけることで紙面に動きをもたせるレイアウトになっている。

第5の観点（オ）言語活動の充実

- ①A 「学びを支える資料」に「発想・構想の手立て」のページを設け、生徒だけでなくアーティストが創作活動をする際の具体的な言語活動を示している。
B 作品に「造形的な視点」を記載して、鑑賞のポイントを提示している。